

ANAグループ（連結）

- 国際線旅客事業において、ビジネス需要を中心とした個人需要が堅調に推移したこと等により、70億円の増収となりました。
- 原油市況の高騰を受けて、燃油費は前年同期比約230億円の増加となりましたがその他コストの抑制に努めた結果、営業費用は47億円の増加にとどめました。
- 上半期に計上したホテル事業資産の譲渡による特別利益をあわせた結果、四半期純利益は過去最高の1,179億円となりました。
- 2007年度業績予想に変更はありません。

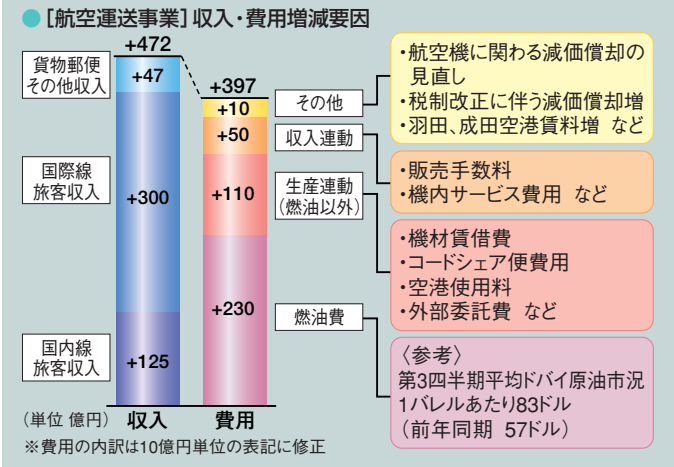
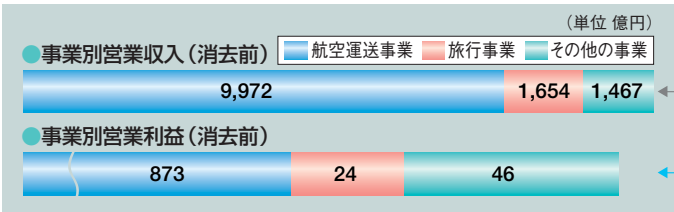
営業収入 14,900億円 経常利益 460億円
営業利益 790億円 当期純利益 640億円

■経営成績

(単位 億円)

	当第3四半期 累計	前年同期比	
		増減	(%)
営業収入	11,415	70	100.6
営業利益	939	22	102.5
経常利益	787	60	108.3
四半期純利益	1,179	753	276.9

■セグメント情報



連結損益計算書

(単位 億円)

	前第3四半期 (2006年4月1日から 2006年12月31日まで)	当第3四半期 (2007年4月1日から 2007年12月31日まで)
営業収入	11,345	11,415
営業費用	10,428	10,475
営業利益	917	939
営業外収益	88	82
営業外費用	278	234
経常利益	727	787
特別利益	40	1,378
特別損失	37	260
税金等調整前四半期純利益	730	1,906
税金費用	294	718
少数株主利益	10	7
四半期純利益	426	1,179

連結キャッシュ・フロー

(単位 億円)

	前第3四半期 (2006年4月1日から 2006年12月31日まで)	当第3四半期 (2007年4月1日から 2007年12月31日まで)
1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,359	1,415
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 976	1,007
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 670	△ 1,047
4. 現金及び現金同等物の換算差額	0	△ 3
5. 現金及び現金同等物の増減額	△ 286	1,371
6. 現金及び現金同等物の期末残高	2,141	3,093

連結貸借対照表

(単位 億円)

	前期 (2007年3月31日現在)	当第3四半期 (2007年12月31日現在)		前期 (2007年3月31日現在)	当第3四半期 (2007年12月31日現在)
〈資産の部〉			〈負債の部〉		
流動資産	4,220	6,068	流動負債	4,730	5,244
固定資産	11,795	11,257	固定負債	7,231	6,688
繰延資産	5	1	負債合計	11,961	11,933
			〈純資産の部〉		
			株主資本	3,645	4,764
			資本金	1,600	1,600
			資本剰余金	1,257	1,257
			利益剰余金	795	1,916
			自己株式	△ 7	△ 9
			評価・換算差額等	336	556
			少数株主持分	76	72
			純資産合計	4,059	5,393
資産合計	16,020	17,327	負債純資産合計	16,020	17,327

決算に関する資料等は当社ホームページでもご覧いただけます。

ANA決算短信

検索

航空運送事業の売上高

(単位 億円)

事業年度		前第3四半期 (2006年4月1日から 2006年12月31日まで)	当第3四半期 (2007年4月1日から 2007年12月31日まで)	増 減	
区 分					
航空運送事業	国内線	旅 客 収 入	5,565	5,690	125
		貨 物 収 入	234	233	△ 0
		郵 便 収 入	70	61	△ 8
		手 荷 物 収 入	2	2	△ 0
		小 計	5,872	5,987	115
	国際線	旅 客 収 入	2,097	2,397	300
		貨 物 収 入	463	539	76
		郵 便 収 入	25	32	7
		手 荷 物 収 入	3	3	0
		小 計	2,589	2,973	384
	航空事業収入合計		8,462	8,961	499
	そ の 他 の 収 入		1,037	1,011	△ 26
	合 計		9,499	9,972	472

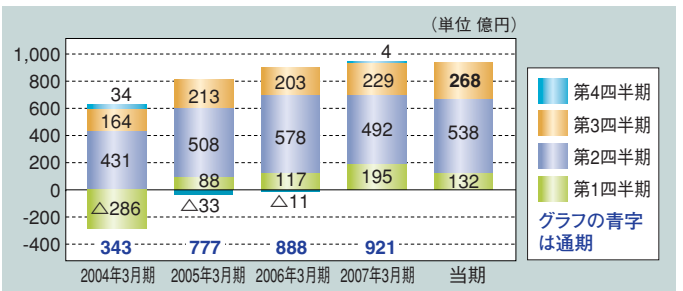
(注) 各収入は事業区分（セグメント）間の売上高を含んでおります。

輸送実績

区 分		事業年度	前第3四半期 (2006年4月1日から 2006年12月31日まで)	当第3四半期 (2007年4月1日から 2007年12月31日まで)	前年同期比 (%)
国内線	旅 客 数 (万 人)		3,541	3,478	98.2
	座 席 キ ロ (億席キロ)*1		471	473	100.6
	旅 客 キ ロ (億人キロ)*2		309	304	98.4
	利 用 率 (%) *3		65.6	64.2	△ 1.4
	貨物輸送重量 (千 ト ン)		349	352	100.8
	貨物輸送量 (百万トンキロ)		337	338	100.2
	郵便輸送重量 (千 ト ン)		71	69	96.3
	郵便輸送量 (百万トンキロ)		76	71	93.6
国際線	旅 客 数 (万 人)		338	363	107.4
	座 席 キ ロ (億席キロ)*1		196	212	107.9
	旅 客 キ ロ (億人キロ)*2		150	160	106.6
	利 用 率 (%) *3		76.7	75.8	△ 0.9
	貨物輸送重量 (千 ト ン)		205	249	121.2
	貨物輸送量 (百万トンキロ)		930	1,218	130.9
	郵便輸送重量 (千 ト ン)		11	11	97.2
	郵便輸送量 (百万トンキロ)		50	55	110.4

(注) *1. 座席キロ: (座席数) × (運航キロメートル)
*2. 旅客キロ: (旅客数) × (運航キロメートル)
*3. 利用率: (旅客キロ) ÷ (座席キロ)
4. 国内線にはIBEXエアラインズ㈱、北海道国際航空㈱、スカイネットアジア航空㈱および当期より㈱スターフライヤーとのコードシェア便実績を含みます。
5. 国際線にはユナイテッド航空 (関西～ホノルル線:2007年4月1日より9月30日まで) およびエバー航空とのコードシェア便実績を含みます。
6. 国内線、国際線ともにチャーター便実績を除いております。
7. 国内線深夜貨物定期便実績を含みます。

■四半期ごとの営業利益の推移



2008年度ANAグループ航空輸送事業計画を策定

1.国際線事業の概要

羽田～香港、北京（南苑空港）線の開設

拡充された羽田国際チャーター便運航可能時間帯を活用し、本年4月から羽田～香港線を毎日チャーター運航。また本年8月開催の「北京オリンピック」を契機に環境条件が整い次第、羽田～北京（南苑空港）路線へチャーター便の運航を計画。

ネットワーク型ビジネスモデルの更なる強化

本年4月1日から台北線の便名を「ANA」便名に変更。

関西線の増便

本年3月から関西～青島線を、本年6月から関西～大連線を増便し、それぞれ毎日運航。また関西～杭州線に最新鋭のボーイング737-700型機を投入。

2.国内線事業の概要

強いオペレーションを実現する「シンプル・ローテーション」の構築

定時性及び効率性を確保し、イレギュラー対応力のあるオペレーションを目指して主基地・目的地間の単純往復化や基地ごとの主要機種設定などを推進。

富士山静岡空港開港（2009年3月予定）に伴い、静岡～札幌・沖縄線の開設

札幌・沖縄線をそれぞれ1日1往復運航。

高品質なサービスの提供

本年4月から開始する「国内線プレミアムクラス」展開を加速すべく、ボーイング777-200型機、777-300型機、737-700型機、767-300型機、747-400型機のシートを順次改修。

3.貨物郵便事業の概要

「第3のコア・ビジネス化」を目指した収益基盤の構築と事業性の向上を実現する「貨物基本ネットワーク」、「沖縄ハブ構想」確立に向けた販売・生産体制の構築。

「貨物基本ネットワーク」の構築

厦門、青島、台北線の増便を行い、「ウィークデーデイリー化（週末を除く毎日運航）」の確立。

旅客機を改修した貨物専用機の導入

ANAで運航していたボーイング767-300型機を世界で初めて貨物機に改造、本年6月に初号機、12月に2号機を導入予定。

「第3のコア・ビジネス化」を目指し、事業基盤の強化を実施

国際エクスプレス事業会社を設立し営業開始、2009年度下期に予定される「沖縄ハブ構想」に向けて貨物事業の基盤を強化。

各項目の詳細は、プレスリリース1/23付08-007号をご参照ください。

<http://www.ana.co.jp/pr/index.html>

※当計画は関係当局の認可を前提としております。